

福祉のこころを学ぶ

in サマーボランティアスクール

今年のテーマは、つながり

夏休みの8月5～8日の4日間、社協がサマーボランティアスクールを開催しました。小学生から大人の方まで、延べ82人の参加がありました。参加者の感想の一部を紹介します。



参加者に配布しました



車いす体験

1日目 8/5(月) 車いすと町内のボランティア活動について知ろう

事故により、身体障がいとなられ、現在は生け花の講師で活躍中の古林信幸さん(野桑)を講師にお願いしました。古林さんは「障がいとは誰でも持つ可能性があるもの、どんなこと、誰に対しても目配り、心配り、優しい気持ちを持って言葉をかけてあげることが大切だ」とお話されました。また、車いすの使い方なども勉強しました。

・お話を聞いて、優しい心が第一に必要なということがわかった。
・車いすを押してみても、思った以上に気を使わなければいけなかったけど、その分やりがいがあると思った。

2日目 8/6(火)



おむつ体験



寝たまま髪を洗いました

みんなで「かいご」を考えよう 子どもにも出来るかいご体験

社協のケアマネジャー、ヘルパーが講師になり、寝たまま髪の毛を洗ったり、おむつ交換等を行い、みんなで「かいご」について考える機会となりました。

・寝たまま髪の毛を洗えることは知らなかった。
・おじいちゃん、おばあちゃんが必要になったら、僕にもお手伝いできそうだから実践してみようかな。
・常に声を掛けることが大切だと言われて、お年寄りの気持ちを考えることは大切だと感じた。

3日目 8/7(水)

介助犬について学ぼう

特定非営利活動法人 兵庫介助犬協会(西宮市)より、介助PR犬「オリザ」1頭と職員の方を招き、肢体不自由者の方の生活や介助犬育成について教えていただきました。



オリザが物を拾ってくれたよ



4日目 8/8(木)

災害について考える

新聞紙で紙食器づくり、乾物サラダや豆ご飯、味噌汁の非常食づくりも行いました。

・新聞紙で食器が作れるとは知らなかった。折り紙をしたのも数十年前ぶり、最初は難しく感じましたが、うまく紙食器が出来た。非常食も初めての経験で、味付けもおいしかった。
・いつ災害が起こるのかわからないので、家の中で危ないところを発見し、対策を考えたいと思った。

4日間のさまざまな体験により、「人と人とのつながりの大切さ」「ささえあいや助け合い」「思いやりのこころを持つこと」「優しい気持ちで声をかけること」などを学びました。ご協力いただいた方々ありがとうございました。



非常食・紙食器づくり